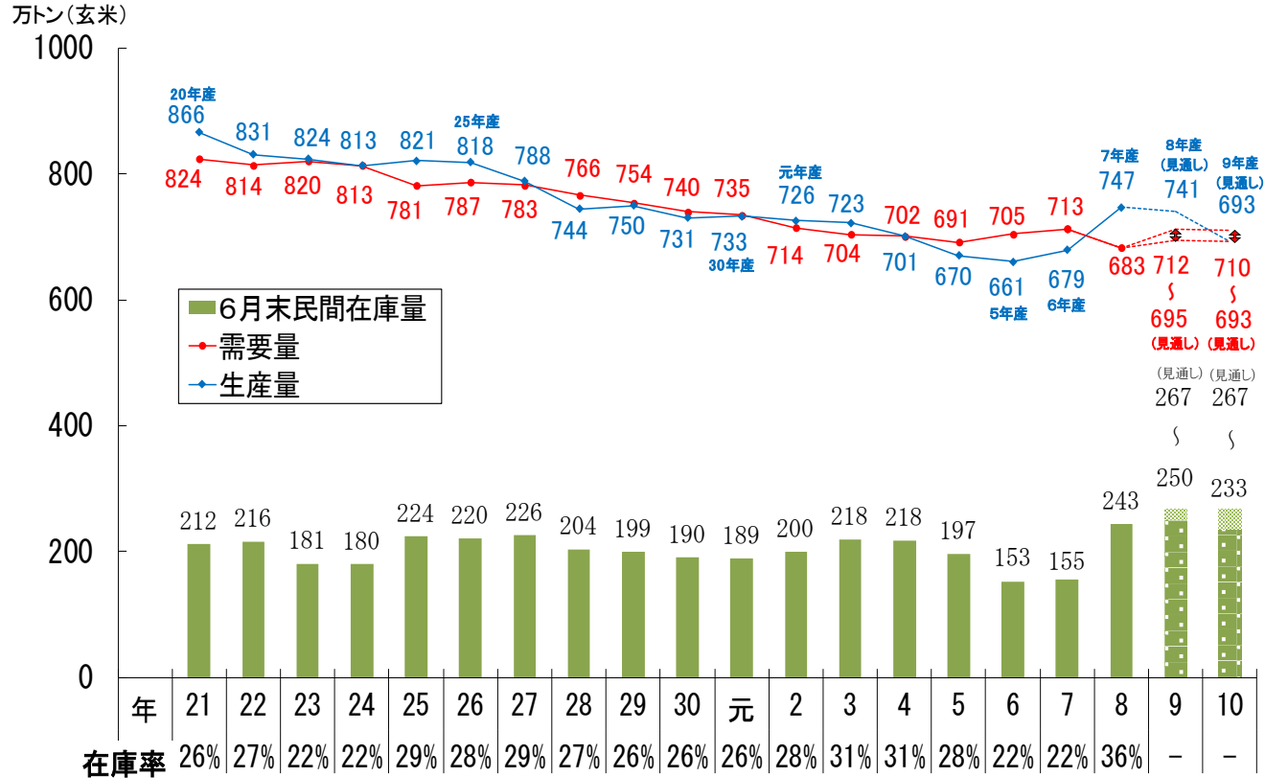
米の需給状況の現状について

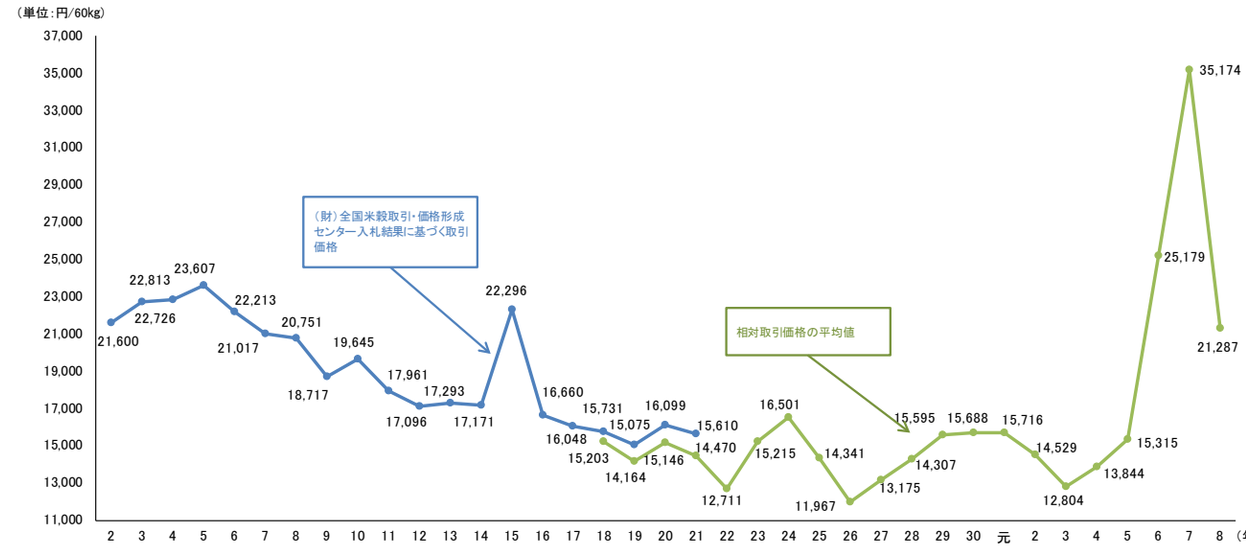
（1） 最近の米の需給動向（需要量、生産量、民間在庫）

○需要量は、令和5年と比較して、令和6年、7年は増加。その主な要因は、高温障害等により精米歩留りが悪かったことから、玄米ベースでの必要量が増加したこと（供給面の要因）に加え、インバウンド需要や、家計購入量の増加など一人当たり消費量の増加によるものと考えられる。
○このため、生産量は需要量に対し不足し、民間在庫を取り崩し、需要量に見合う供給量を確保せざるを得なかったため、令和6年及び7年の6月末民間在庫量は近年では低い水準となった。
○一方、令和7年産の主食用米の生産量が、平成29年以来最高となったことや需要量が減少したこと等から、令和8年6月末の民間在庫量は、243万玄米トンとなり、比較可能な平成11年以降、最も在庫水準が高い在庫水準となっている。



（2） 米の価格の推移

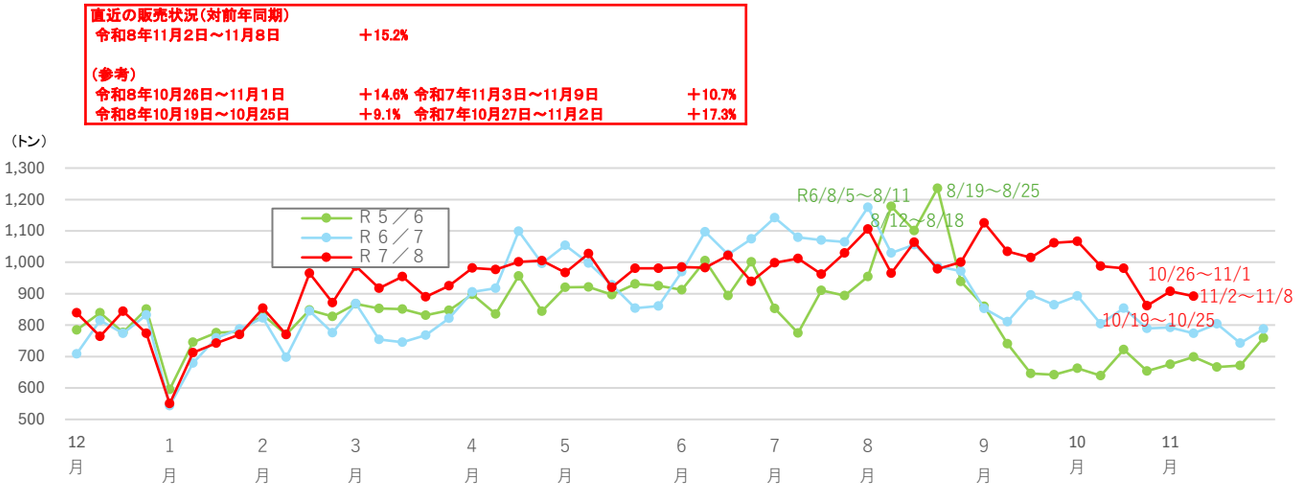
○令和8年産米の令和8年9月までの年産平均価格は21,287円/玄米60kgとなり、対前年▲13,887円、対前々年▲3,892円となった。



注：年産別平均価格（令和７年産及び令和８年産は、出回りから令和８年９月までの速報値）。

（3） スーパーでの販売数量の推移（POSデータに基づき作成、全国・週次）

○令和6年8月に買い込み需要が発生したこと等により伸びが著しい週が3週継続した後、概ね前年同程度か、前年を下回る水準で推移。
○令和7年6月、7月に前年を上回った以降は平年並みに推移し、令和8年2月から4月に上回る水準で推移し、新米の出回り等を背景に再び上回る。
○令和8年11月2日～11月8日の販売数量は対前年同期＋15.2%。



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータ（全国約1,000店舗のスーパー、生協等）に基づいて農林水産省が作成。
注：週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは異なる場合がある。